

関東学院大学

関東学院大学
情報科学センター
所長
村上 裕 氏



関東学院大学
情報科学センター
運用課 課長
河田 昌俊 氏



関東学院大学
情報科学センター
運用課 係長
小糸 達夫 氏



約1万5000アカウントを学内で管理 運用負担の増大が大きな課題に

いまや当たり前のものになっている、大学における電子メール活用。教職員や学生のコミュニケーション手段としてはもちろんのこと、卒業生にメールアカウントを配布するケースも増えてきた。これに伴い大学が管理すべきメールアカウントの数も急増。メールシステムの運用も大きな負担になりつつある。

この問題を解決するため、メールサービスをSaaS型へと切り替えたのが、関東学院大学である。

同大学は1884年に創立された横浜バプテスト神学校を起源とする、キリスト教精神に基づく総合大学。1949年の学制改革によって関東学院大学となり、現在では金沢八景キャンパスを中心に、3キャンパス、5学部5研究科を持っている。「人になれ 奉仕せよ」という校訓のもと、豊かな素養と高度な専門性を持つ人材を数多く育成。グローバル時代における異文化交流の場としても、大きな貢献を果たしている。

IT活用にも積極的だ。1996年からキャンパス内およびキャンパス間を結ぶネットワークである「KG-Net」を構築。2003年には学院全体をカバーする「OliveNet」へと発展させている。2001年には金沢八景キャンパスに情報教育の拠点となる「Foresight21」の完成。各学部におけるIT活用も1990年代半ば頃から拡大し、電子メールも急速な勢いで浸透していったのである。

関東学院大学における電子メールシステムの運用は、長年にわたって学内サーバで行われて

きた。サーバの更改も定期的実施されており、2004年にはLinuxが稼働する1Uラックマウント型サーバを導入、これで全学のメールサービスを提供していた。メールアカウントの数は約1万5000。これが1名の運用担当者でITベンダのシステムエンジニアによって管理されていたのである。

「限られた人員でこれだけの規模のメールサービスを運用するのは、決して簡単ではありませんでした」と振り返るのは、関東学院大学 情報科学センター 所長の村上 裕氏。電子メールは重要なコミュニケーション手段であるため、24時間365日止まることが許されないからだ。「これまでもサーバの増強を行ってきましたが、ハードウェアを強化しても運用は強化できません。どのようにして運用を強化するかが大きな課題になっていたのです」

大学側のニーズに柔軟に対応できる ネットマークスのSaaS型サービスを採用

そこで2006年4月、関東学院大学ではメールシステムのアウトソーシングの検討に着手。当初はインターネットで提供されているフリーメールのサービスや、インターネットプロバイダのサービスを検討していたが、なかなか最終的な決定には至らなかったという。

その後2007年9月にネットマークスが、web2.0技術を取り入れたSaaS型メールサービスを提案した。このサービスをネットマークスでは「Office Planetメール2.0サービス」として提供しており、最終的にこの提案が予算委員会承認され、採用が決定するのである。2008年3月にこのサービス

を導入、同年4月にはサービスが始まっている。

今回導入されたSaaS型メールサービスは、米国Zimbra社のAjax対応Web2.0型コラボレーションソフトウェアをベースにしたもの。電子メールやスケジュール管理、文書管理などをWebブラウザから利用できる。またAjaxの活用によって高い操作性を実現しているのも大きな特長だ。サービスの基盤となるシステムは、ネットマークスが24時間365日体制で運用・管理するセンターに設置され、集中的に管理されている。そのためサーバなどを大学内に設置する必要がなく、運用管理の負担も大幅に軽減できるのである。

それではなぜ本サービスが採用されたのか。複数の理由が挙げられると村上氏はいう。

まず前提条件となったのが、アカウント数の増大に対応しやすいことだった。「生涯メールを希望する卒業生にメールアカウントを付与することになっており、アカウント数の増大に対応できる複数ドメイン管理が必要になりました。また料金体系にも配慮しなければなりません。ネットマークスの提案は、これらの条件をクリアできるものでした」

その一方で「学内のアカウント管理と統合できる点も重要な条件でした」と指摘するのは、関東学院大学 情報科学センター 運用課 係長の小糸 達夫氏だ。関東学院大学では統合されたアカウント管理システムが運用されており、新たに導入されるメールシステムもこの管理下に入ることが要求されていたのだという。「一般的なプロバイダのサービスは融通が利かないので、このような要求に対応することは困難です。あるプロバイダからは特別対応の提案もありましたが、それでもコストや保存容量の限界という問題がありました。しかしネットマークスのサービスは、学内システムとの連携にも問題なく対応できたのです」

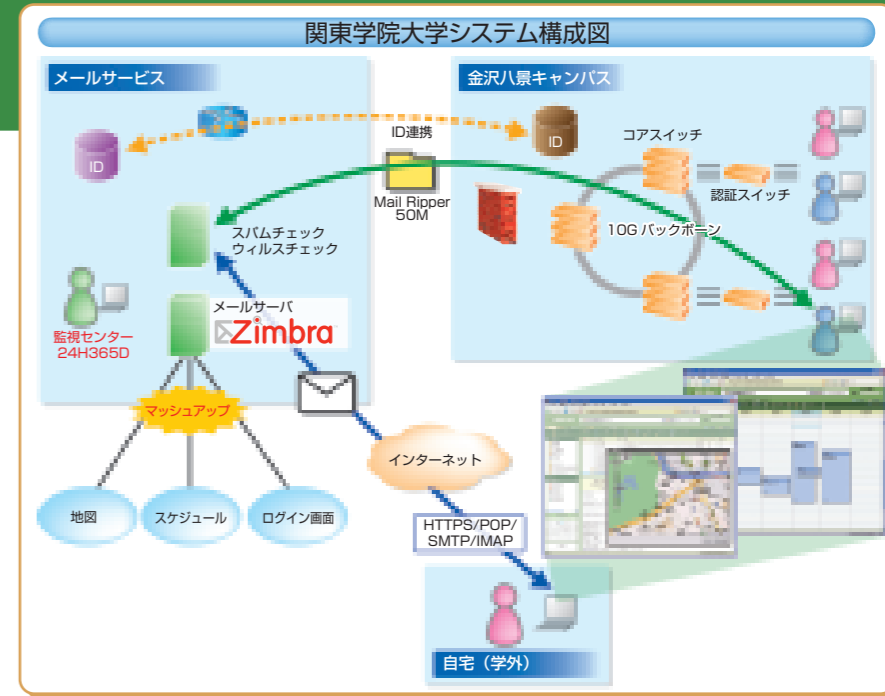
運用負担が軽減され、サービスの安定性も向上 メールフィルターの効果にも高い評価

信頼性や実績の高さも理由のひとつに挙げられている。「ネットマークスのメールサービスは信頼感が高く、安心して任せられます」というのは、関東学院大学 情報科学センター 運用課 課長の河田 昌俊氏。また大学におけるシステム導入・運用には補助金申請などの「大学固有の対応」も必要になるが、ネットマークスには大学への高い導入実績があり、このような対応に慣れている点も高く評価できたという。

実際、メールサービスの運用をネットマークスのSaaS型サービスに切り替えたことで、運用担当者の負担は大幅に軽減された。運用作業をネットマークスに任せることで、システム面で気にかけるべきことが皆無になったのだ。また問い合わせに対しても、即答できないものはネットマークスにエスカレーションし、後は任せておけばいい。

しかし効果はこれだけではない。本サービスは他にも数多くのメリットをもたらしている。

まずサービスの安定性が飛躍的に高まった。以前は負荷増大によってエラーが発生することがあったが、今ではその不安はない。例えば夏



休み明けにはメールのダウンロードが急増するが、本サービスはまったく問題なく対応できたという。

迷惑メールも少なくなった。「本サービスのメールフィルターは予想以上に効果的に迷惑メールを遮断してくれます」と河田氏。エンドユーザからも、この点が最も高く評価されているという。

電子メールの一本化が可能になったことも大きなメリットだ。以前は学内用のC/S型のメールサービスの他、学外からアクセスするためのWebメールサービスも運用していた。しかしSaaS型サービスは学外からもアクセスできるため、複数のサービスを提供する必要がなくなったのである。

ICT教育強化のインフラを確立するため ネットワーク環境の再整備にも着手

このようにメールサービスのSaaS化は様々な効果をもたらしているが、関東学院大学ではこれと並行して、学内のネットワーク環境再整備にも着手している。ここでもネットマークスは重要な役割を担っている。2007年4月からこのプロジェクトに参画し、具体的な提案も行っているのだ。実はメールサービスのSaaS化も、ネットワーク再整備の一環として提案されたものだったのである。

ネットワーク環境再整備の目的は大きく3つある。まず第1は運用ポリシーの統一だ。関東学院大学のネットワークには、各学部毎に導入・運用されていた部分が少なくなかった。このような部

分を整理・統合することで、大学全体で統制のとれたネットワークにしていく。第2はセキュリティを高めること。そのために認証VLANや検疫機能の導入が計画されている。そして第3はネットワーク活用をこれまで以上に活性化すること。全学をカバーする無線LANの敷設などによって、ネットワークの利用形態を広げていこうとしているのだ。

「ICT教育の強化は大学にとって重要な課題のひとつです」と村上氏。すでにネット経由で語学学習が可能なシステムや、映像のストック・配信が可能なコースマネジメントシステムが導入されており、今後も遠隔授業などの実現が検討されているという。「このような取り組みを円滑に進めていくには強力なインフラが必要です。ネットワーク環境再整備は、このインフラを確立するために不可欠なものなのです」

すでにコアスイッチとセンター側のエッジスイッチ、インターネット接続部分の整備は2008年9月に完了。2008年度末までには、情報センターの認証VLAN対応や検疫機能の導入、無線LANアクセスポイントの設置などが、金沢八景キャンパスを対象に行われる予定だ。2009年度にはセンターから各研究室に敷設されているケーブルを更新すると共に、他のキャンパスへの展開も進められる計画になっている。

「ICTの分野は進歩が非常に速いので、いいパートナーと組むことが重要です。長くつきあえるパートナーとして、これからもネットマークスに期待しています」(村上氏)

* SaaS (Software as a Service) サービス：
利用者にインターネットを通じ、ソフトウェアなどの機能が必要に応じて提供する仕組み

電子メールをSaaS型サービスへと移行 運用負担の軽減とサービス安定性が向上

1884年に創立された横浜バプテスト神学校を起源とし、2009年に125周年を迎える関東学院大学。ここでは長年にわたって学内で運用されてきたメールシステムを、ネットマークスが提供するweb2.0技術を取り入れたSaaS型メールサービスへと移行した。目的は運用負担の軽減とサービス安定性の向上。信頼感の高いデータセンターで運用を任せられる点や、大学へのシステム導入におけるネットマークスの豊富な経験、大学側のニーズへの柔軟な対応等が、高く評価されているのだ。その一方でICT教育をさらに強化するため、学内ネットワーク環境の再整備にも着手。ここでもネットマークスが重要な役割を担っている。

ユーザー紹介

関東学院大学

<http://univ.kanto-gakuin.ac.jp/>

1884年に創立された横浜バプテスト神学校を起源とする、キリスト教精神に基づく総合大学。2009年に創立125周年を迎える。1949年の学制改革によって関東学院大学となり、現在では金沢八景キャンパスを中心に、3キャンパス、5学部5研究科を持つ。「人になれ 奉仕せよ」という校訓のもと、豊かな素養と高度な専門性を持つ人材を数多く育成。グローバル時代における異文化交流の場としても、大きな貢献を果たしている。



問い合わせ先



NETMARKS
ネットマークス

We are here
On Customers' Side.

[URL] <http://www.netmarks.co.jp>

株式会社ネットマークス マーケットコミュニケーション部
〒135-8560 東京都江東区豊洲1-1-1
TEL.03-5144-1110 FAX.03-6866-4311
E-mail:info@netmarks.co.jp